

学校林・遊々の森

全国子どもサミットin京都が開催されました



参加児童全員で記念写真

「学校林」や「遊々の森」等における森林体験活動について情報を交換し、活動の輪を全国の小学校に広げていくため、8月6日～7日、「古都で学ぶ 森と人とのつながり」をテーマに、「学校林・遊々の森」全国子どもサミットin京都が京都府京都市において開催されました。

今年で6回目となる今回のサミットでは、近畿地域を中心とした20の小学校から、総勢約100人の児童や先生が参加しました。

児童による森林体験活動発表会

1日目は、各参加小学校の児童が、学校林や遊々の森における活動内容やその成果などについて発表しました。京都府京都市立金閣小学校の児童は、フィールドとなる衣笠山で野鳥のための巣箱を設置したことなどの活動について紹介しました。

また、今回から新たに設けられた質問時間では、児童同士による活発な質疑応答が行われました。京都府長岡京市立神足こうたく小学校の児童は、「一番楽しかったことは何ですか」と問われ、「自分たちでドングリを育て、山に植えた苗

が育つのが楽しみ」と答えていました。

講演・講評

発表会后、京都教育大学の山下教授による特別講演が行われました。森と人との目に見えないつながりを論じ、大切な森林を守っていくためには関心を持ち続けることが重要と講演されました。続いて「実際の体験を通じて学び、自分の頭で考えていた点が優れている」など、発表会の講評が行われました。

ナイトウォーク

クスノキなどの巨木について説明を受けながら、暮れてゆく京都の町を散策しました。羽化する前の蟬の幼虫を観察するなど、夜ならではの体験に児童達は喜んでいました。

国有林での自然体験活動

2日目は清水寺などの借景となっている高台寺山国有林において、樹木の説明を聞いたり、特徴のある木を探したりしながら散策しました。その後の振り返りでは「色々な樹木のことを知ることができて勉強になった」などの感想がかけられました。



国有林にて自然体験活動



京都市立神足小学校の活動発表